

すべては、祝福のなかにあるのです。

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第2365号
(2010年4月20日発行)より

「生きている時間よりも、死んでいる時間のほうがずっと長い」。これが、私の、死にたいする考えかたです。

私たちの多くは、死を特別視しますが、私たちが生まれてくる前には、気の遠くなるくらい長い時間があったわけですし、また、死んだあとにも、果てしない時間があるわけです。

つまり、私たちは、いま、「たまたま生きている」時間に、めぐりあわせているに過ぎないのです。言い換えれば、「死んでいる」ほうが普通で、「生きている」というのは、かなり特殊な状態なのです。(あくまでもかめわぎ流なので、ツッコミは、なしですよ～！)

けれども、同時に、こんなことも思うのです。この宇宙のエネルギーの総量は不変です。私たちの生命が途絶えても、私たちのエネルギーまでが、なくなってしまうわけではありません。

私たちは、遍在する宇宙から、生じて、いまを生きているわけですし、死んだあとは、また、宇宙に遍在するエネルギーにもどるだけなのです。その意味で、私たちは、一度も死んだことがない、と言えるかもしれません。

また、生きている私たちは、個としての自分しか意識することができませんが、もしかしたら、その遍在するエネルギー状態では、宇宙そのものを、自分と同一のものとして、感じるができるかもしれません。(感じる意識というものが、あるのかどうかはわかりませんが)

そんなふうと考えてみると、この世には、かくあるべしと、定められたものなど、何一つないということがわかるのです。

ただ、たまたま、生まれあわせた時代の、地域の、関係のなかで、たまたま多数が支持する(もしくは信奉する)信念や習慣にたいして、「常識」という概念をあたえているに過ぎないだけだと思うのです。

ちょっと理屈っぽくなってしまいましたが(笑)、お伝えしたかったことは、死についてであれ、生についてであれ、私たち

は、ひとつのこたえを得ることはできないということなのです。もっと言うと、私たちは、何ひとつ知ることなどできないということです。

でも、何ひとつ知ることができないということは、すべてを、自分で創造していいということなのです。自分が創造したものだけが、自分にとっての真実となります。

だから、生とは、そのように創造した自分を生きていくということであり、死とは、そのように創造した自分を、終わらせていくということなのです。

たとえ、0歳であろうと、100歳であろうと、自分の生と死のプロセスを創造できるのは、自分自身だけなのです。(しつこいようですが、あくまでもかめわぎ流なので、ツッコミは、なしです！！)

どうぞ、自らの創造主である、自分自身を尊重してください。それぞれの創造主である、一人ひとりを尊重してください。その自分自身が生きるプロセスを信頼してください。その一人ひとりが生きるプロセスを信頼してください。

そして、宇宙の歴史のなかの、ほんの一瞬を「生きて」いる、自分自身を祝福してください。一人ひとりを祝福してください。

その一人ひとりのきらめくいのちは、宇宙に光る無数の星の光そのものです。あなたも、私も、まだ見ぬすべてのひとも、その、ほんの一瞬のまたたきの美しさを、生きているのです。

そして、そのきらめく美しさを支えるものが、「死」なのです。「死」なくしては、「生」もまた、存在しないのですから。

だから、すべては、祝福のなかにあるのです。どうぞ、まるごとの生と死を、受け取ってください。そうして、永遠の、宇宙エネルギー体としての自分を、生ききってください。

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、**2003年11月1日創刊。2010年2月、2300号達成。**3秒で読める携帯版もあり。無料講読は「かめわぎ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>